

Mizuho Bangkok Daily Market Report

Dated of 2025/03/13

Forex

	Close	CHANGE
USD/THB	33.81	0.04
JPY/THB	0.2281	-0.0004
USD/JPY	148.25	0.47
EUR/THB	36.81	-0.07
EUR/USD	1.0888	-0.0031
USD/CNH	7.242	0.015
SGD/THB	25.37	0.02
AUD/THB	21.37	0.11
USD/INR	87.21	0.00
USD Index	103.61	0.19

Bond

	Close	CHANGE
5Y (THB)	1.924	-0.010
10Y (THB)	2.141	-0.009
5Y (USD)	4.070	0.035
10Y (USD)	4.312	0.033

Commodity

	Close	CHANGE
GOLD	2,946.8	25.9
WTI (Oil)	67.68	1.43
Copper	9,770.0	107.5

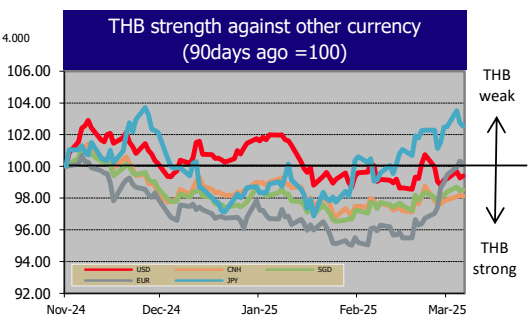
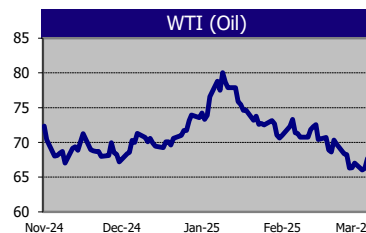
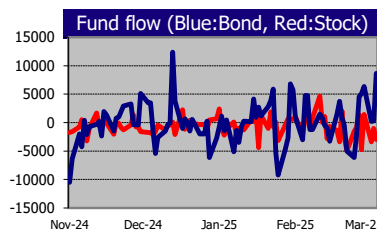
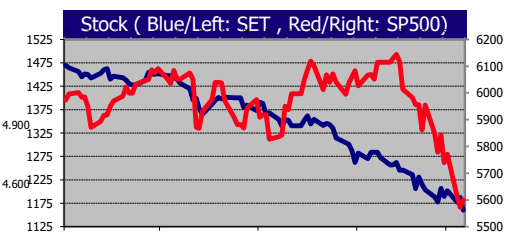
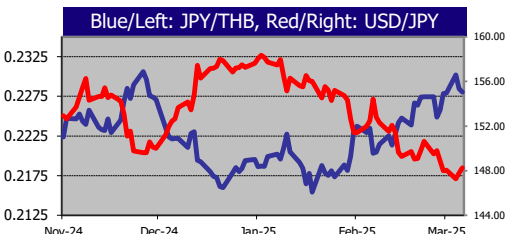
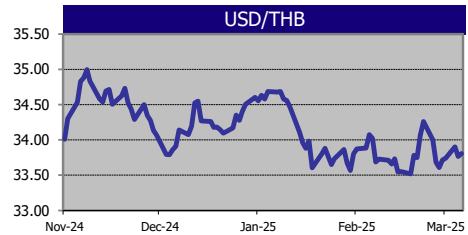
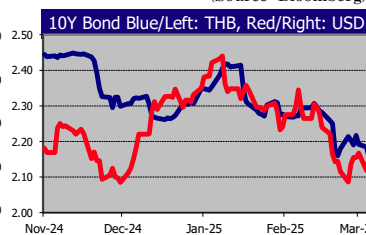
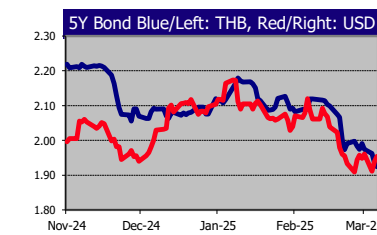
Stock

	Close	CHANGE
SET (TH)	1,160.06	-27.57
NIKKEI (JP)	36,819.09	25.98
DOW (US)	41,350.93	-82.55
S&P500 (US)	5,599.30	27.23
SHCOMP (CN)	3,371.92	-7.90
DAX(GER)	22,676.41	347.64

Fund Flow (Overseas Investors)

	Close	CHANGE
Stock net flow	(2,965)	-1944.8
Bond net flow	8,651	8355.0

*compared with previous day
(Source: Bloomberg)



Yesterday's market summary

●ドルパーツ

昨日のドルパーツは僅かに上昇。33パーツ後半でスタート。前日ウクライナが停戦案を受け入れたことや、米国がカナダへの追加関税を撤回したことで、リスクセンチメントがやや改善し、バンコク時間はドルじり高展開となった。NY時間朝方に発表された米2月CPIが市場予想を下回り、インフレ鈍化の思惑から一時ドル安に振れるも、すぐに反転上昇。しかしその後カナダが米国への報復関税を発動との報道を受け、リスクセンチメントが再度悪化し、NYオープン前の上昇幅をほぼ取り戻す展開となり、33.81レベルでクローズ。

●ドル円その他

昨日のドル円は上昇。147円台後半でスタート。リスクセンチメントがやや改善する中で、ドル買いが先行し、NYオープン前は148円台後半まで上昇。NY時間朝方に発表された米2月CPIの伸び鈍化を受け、一時148円台前半まで下落するも、すぐに149円台前半まで反発。しかしその後カナダによる米国への報復関税を発動が伝わり、148円台前半まで急落。リスク回避ムードが強まる中で、終盤にかけて軟調に推移し、148.25レベルでクローズ。

Bangkok Dealer's Eye

今週こそ一服感あるも3月以降ドル円のボラティリティが上がってきている。主にトランプ大統領の不規則発言や関税発動を機に、米景気の先行きが不透明になっていること、それによって株式市場が世界的に不安定となっていること、加えて、ロシア・ウクライナ情勢など地政学リスクの高まり、後退の情報が交錯していることなど、リスク選好と回避の動きが目まぐるしいことが背景の一つとして考えられる。そのような中、先週の発表で2016年10月以来最大の水準となっていた投機筋の円の買い持ち高が、今週の発表ではデータが遡れる1992年以降で最大、つまりは過去最大まで膨れ上がっていたことが判明した。この事実のインプリとしては、ドル円が70円台だった2011年頃よりも円買いポジションが溜まっているにも拘わらず今のドル円は150円近辺にしているということ、今後は投機筋による過去最大の円売りフローが可能となっていること、の2つか。昨日の米2月CPIは予想を下回る伸びとなり、相場への影響は限定的となった。そもそも原因や影響が分析しやすい経済指標は、マグマ放出のきっかけにはなりにくいものかもしれない。そうすると、警戒すべきは突発的なヘッドライン、或いは他のアセットクラスの急変ということになりそうで、それはすなわちトランプ大統領の不規則発言、それによる株式や債券市場の混乱などとなる可能性が高いと考える。(吉田)